



Title	産研ニュースレター 第56号
Author(s)	
Citation	産研ニュースレター. 2015, 56, p. 1-8
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/77409
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

中谷和彦所長就任

八木康史前所長、
大阪大学理事・副学長就任へ

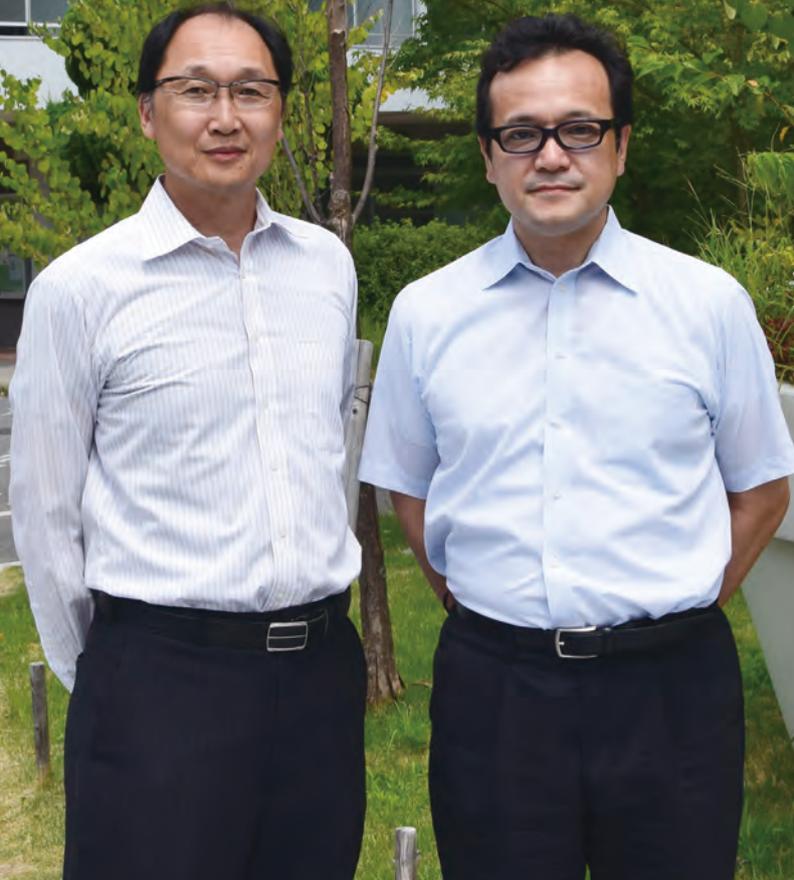
2015.10

vol.

56

大阪大学
産業科学研究所

The Institute of
Scientific and Industrial Research,
Osaka University



- 中谷和彦所長就任挨拶 ● 中谷所長による役員新体制
- 八木副学長・理事 就任前インタビュー

- 平成27年度第75回および76回産研テクノサロン
- イノベーションジャパン2015 -大学見本市- に出展
- 「アルクダケ 一歩で進歩」日本科学未来館で八木研究室の体験型展示を公開中
- 産業科学研究所「ものづくり教室」開催 ● 武庫川女子高校夏季研究体験ほか 施設見学続々と
- シンポジウム「未来を拓く植物バイオの子カラ～授業と科学実験で学ぶ、遺伝子組換え植物～」開催
- 2周年を迎えた定例記者会見 ● 「第4回産研若手人材育成海外派遣ワークショップ」開催
- 産研安全講習会を開催 ● 2015産研フェスタ開催 ● サンフランシスコ市派遣高校生アンバサダーが来所

所長就任のご挨拶



産研構成員の皆さん、去る8月26日付で大阪大学産業科学研究所所長を拝命した中谷です。今回の所長候補者選挙は八木前所長の大阪大学理事就任に伴い急遽実施されたため、直接皆さんに私がどのような産研を目指しているかをお伝える機会がとれませんでした。ニュースレターのお借りして、私のイメージする将来の産研をお伝えしたいと思います。

産研に着任する以前は、産研の先生方は存じ上げていたものの、大阪大学産業科学研究所の事は正直よく知りませんでした。「産業科学」の文字からイメージする、実用化、工業化など産業に直結した研究が進められているのではと想像する程度でした。もちろん、このようなイメージは着任後すぐに払拭され、生物科学から情報科学にわたる広い研究分野において、基礎研究から実用化に至るそれぞれの段階において産業に資するための研究が進められている研究所であるとの認識を、皆さんと共有出来ているのではないかと思います。

産研の歴史を勉強し直してみると、産研は当初36研究分野を擁する大きな研究所として計画されていたことを知りました。その後の社会状況の変化に伴い、36研究分野の構想は実現することなく、核となる研究分野から産研を始めるに至ったそうです。現在の産研は、27研究分野を誇る大阪大学最大の附置研究所として発展してきていますが、設立に当たられた諸先輩方の壮大かつ高邁な構想には頭が下がります。

産研をさらに発展させるために、27研究分野に加えて総合解析センター、量子ビーム科学研究施設をはじめとする産研の研究と教育を支える各組織が、今まで以上に一体感を持つ研究所として運営していきたいと考えています。お隣や上下の研究室との日頃のおつきあいだけでなく、産研の使命である産業に資する基礎、応用、さらには実用化に至る研究を、各研究組織そして研究所が一体となって取り組める産研を目指して運営して参ります。

産研の特徴は、研究所が取り組める幅広い研究領域とそれに取り組む研究者、学生を育成できることにあります。いわば産研という鍋の中に、各分野の研究がふつふつ煮えている様なもので、個々の素材が素晴らしいだけでなく、素材同士が混ざり合ってこそ絶妙な味を引き出せるのではないかと考えています。各分野での研究を世界トップレベルに維持するとともに、目的に応じて必要な研究を研究所の中から選り出すプロジェクト型の研究を機動的に行うことで、産研の特徴を最大限に発揮出来るのではないかと考えています。

産研の発展には皆様のご協力が不可欠です。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

中谷 和彦

Profile

中谷 和彦

(なかたに かずひこ)

昭和34年11月25日生まれ(満55歳)

■学歴等

昭和57年3月 大阪市立大学理学部化学科 卒業
昭和59年3月 大阪市立大学理学研究科化学専攻
修士課程 修了
昭和62年3月 大阪市立大学理学研究科化学専攻
博士課程 研究指導認定退学
昭和63年6月 理学博士(大阪市立大学)

■専門分野

有機合成化学、ゲノム科学

■職歴

昭和60年3月 米国コロンビア大学化学科研究員
昭和63年4月 財団法人相模中央化学研究所
博士研究員
平成 3年4月 大阪市立大学理学部助手
平成 5年4月 京都大学工学研究科助手
平成 9年4月 京都大学工学研究科助教授
平成17年4月 大阪大学産業科学研究所教授
平成27年8月 大阪大学産業科学研究所長

■受賞

平成 7年2月 有機合成化学奨励賞
平成17年11月 第19回日本IBM科学賞
平成20年3月 第25回日本化学会学術賞
平成20年4月 第40回市村学術賞貢献賞
平成20年11月 第26回大阪科学賞



新体制の役員会

写真左より 小口 多美夫 所長補佐、永井 健治 副所長(研究推進・産学連携担当)、沼尾 正行 副所長(総務・労務・国際担当)、中谷 和彦 所長、古澤 孝弘 副所長(財務・施設担当)、吉田 陽一 副所長・ナノテクノロジーセンター長(教育連携・広報担当)、田中 秀和 所長補佐、田中 良和 事務部長

八木康史前所長が大阪大学理事・副学長に就任されました



平成27年8月26日より八木康史教授が大阪大学理事・副学長(研究・リスク管理担当)に就任されました。任期は平成29年8月25日までの2年間。就任前の八木教授に伺いました。

— 理事・副学長へのご就任をどのように受け止められましたか？

今回、附置研究所・センター群、いわゆる学術研究機構会議より理事・副学長に就任したのは、私1人です。学術研究機構会議の代表として就任したと捉え、責任の重大さを感じ、真摯に受け止めています。

— 産研所長としてのご経験をどのように活かされたいと思われますか？

総合理工型研究所である産研では、研究分野も材料・情報・生体・ナノテクノロジーと幅広い分野があります。他の研究所の所長と異なり、産研所長として自身の研究以外の研究分野をマネジメントする機会を得たことは、貴重な経験でした。

今後、人文科学・社会科学系などの文系、医学系、理学系など様々な研究を文理融合でマネジメントする上でこの経験は活かされると思います。また、すべての部局長に通じることはありますが、部局長間の人脈ネットワークを培うことが出来ました。最後は人と人との繋がりが大切です。部局を超えた人脈を構築できた点は、今後の大きな糧となると思われます。

— 研究・リスク管理担当理事としての抱負をお聞かせください。

西尾章治郎総長は、キャンパスのグローバル化の推進、「教育の阪大」の特色を生かした人材育成などを基本方針に掲げられています。

大阪大学が地域に生きる大学として大阪の活性化に貢献するとともに、「教育の阪大」として大阪大学のブランド力強化も謳われています。ブランド力強化という点において、研究・リスク管理担当は極めて重要な役割を果たすと考えています。研究推進という観点においては、研究力の強化と安定した研究力を発揮できる環境を整えたいと思います。

そのために、まずは大学全体の研究基盤力の強化、さらにWPI(世界トップレベル研究拠点プログラム[※])のような突出した研究を支援することが必要であると考えます。この2点は全く違う方向性で検討すべき事項ですが、今後は西尾総長のもと室体制をとり、大学の将来像、研究基盤と突出した研究推進のあり方を室員とともに考え、西尾総長を研究推進という立場で支え、大阪大学のブランド力強化に最大限貢献していきたいと思えます。

— 産研の教職員・学生のみなさんへのメッセージを

産研は考え方によっては、規模・環境とも恵まれた組織です。

医学研究科、工学研究科のような大きな組織とは異なり、教職員の顔も見えやすく、分野や部署を超えた関係も築きやすい組織です。今の時代、隣に住む人が誰かも分からないといった状況も多いなか、産研では比較的隣の研究室が見えやすい距離にあるということです。コミュニケーションが取りやすい環境を積極的に活用し、分野の垣根を越えた人間関係を築き、教職員も学生もステップアップして頂きたいと思えます。

教職員も学生も、産研が最終ゴールではありません。皆さんが産研で自分を高め、一步成長して羽ばたける人間力を養って頂くことを願います。



※世界トップレベル研究拠点プログラム(WPI)：

平成19年度に文部科学省が開始した事業。基礎研究分野を対象に大学等への集中的な支援により、システム改革の導入等の自主的な取り組みを促し、優れた研究環境と高い研究水準を誇る「目に見える拠点」を形成する。研究拠点に「世界最高レベルの研究水準」、「融合領域の創出」、および「国際的な研究環境の実現」、「研究組織の改革」の4つの要件を求めており、この目標を達成するため、大学の学長、学長経験者、ノーベル賞受賞者、産業界、著名外国人有識者を含む世界トップレベル研究拠点プログラム委員会において、採択時の審査及び毎年度のフォローアップを行っている。

第75回および76回産研テクノサロン

科学技術によるイノベーションが期待される中、産研テクノサロンでは新たな価値の創造をテーマにした例会を開催しています。5月15日の第75回では、『科学技術から新たな価値の創造へ』をテーマに開催され、八木康史所長による「産業科学による新たな価値の創造」について、松本和彦教授による「人間力活性化によるスーパー日本人育成」について講演が行われました。また、BASFジャパンの高橋隆一氏、安川電機の鈴木健生氏からは、技術革新についての貴重な経験や考えを披露していただきました。

7月31日の第76回では、『大規模情報時代における価値創造』と題して、期待が寄せられるビッグデータと呼ばれる情報の活用をテーマに開催されました。こうした時代の流れに対応すべく、鷲尾隆教授による「ビッグデータからのモデルマイニング」、横田一道助教による「微小物体情報検出技術」の紹介が行われました。また、産業界からはNTTの前田栄作氏、PTCジャパンの後藤智氏、トムソン・ロイターの波多野薫氏から講演があり、情報活用による新たな価値の創造について語り合うことができました。

どちらの会も多くの方が参加され、技術の内容や応用展開について質疑応答や

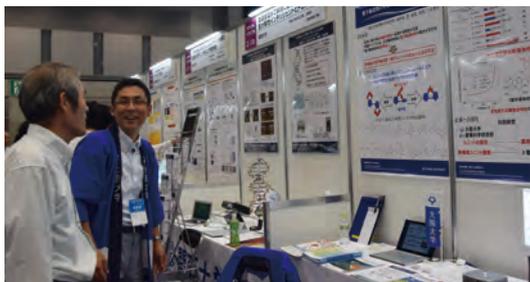
意見交換が活発に行われ、講演会後の親睦交流会においても熱心に連携についての相談が行われました。



イノベーション・ジャパン2015—大学見本市—に出展

大学等の科学技術シーズを発表展示し、産学のマッチングを図る場として国内最大規模のイベントであるイノベーション・ジャパン2015が8月27、28日に東京ビッグサイトで開催されました。産研からは家裕隆准教授による「電子輸送型の有機半導体ユニットの開発」および山口俊郎助教による「ワンランク上のハロゲンフリーエポキシフリー化合物を使ってみませんか」の展示発表が行われました。連日1万人を超える入場者があり、熱心に展示内容を見学し、連携の可能性についての話し合いが行われていました。

また、大学発ベンチャー表彰2015も行われ、産研発のベンチャーであるクオインタムバイオシステムズ社が科学技術振興機構理事長賞を受賞されました。(P.7 Hot Topicsに関連記事)こうしたイベントをきっかけに産学の連携が深まり、イノベーションの創出につながることを期待したいと思います。



「アルクダケ 一歩で進歩」日本科学未来館で八木研究室の体験型展示を公開中

平成27年7月15日から平成28年4月11日までの間、八木研究室の研究が日本科学未来館で常設展「メディアラボ」の一部として展示されています。

展示では、腕の振り方や歩幅の大きさ、姿勢など、歩き方の癖をカメラで撮影し、解析して個人を測定したり、年齢を推定できる「歩き方の個性」の測定と、歩きながら計算問題を解くことで脳の健康度がわかる「認知能力計測」の体験型の2つのコンテンツがあり、音声ガイダンスに従いゲーム感覚で体験できます。計測結果はカードに印刷され、持ち帰ることもできます。この体験で同意を得て撮影されたデータは今後研究に活用される予定です。

このほか、次世代の科学捜査技術としても期待され、犯罪捜査の現場でも試験導入されている「歩容鑑定システム」(カメラに写った歩く人物を特定する警察の鑑識官向けのソフトウェア)の紹介映像も展示されています。

新聞・雑誌テレビ等でもこの展示は多数紹介されています。取材当日は、閉館前にもかかわらず展示ブースに行列ができるほどでした。展示開始から3ヶ月間で、およそ30,000名の方がこの展示を体験されました。会期は来年4月までの長期間の展示ですので、東京にお越しの際はぜひお立ち寄りください。



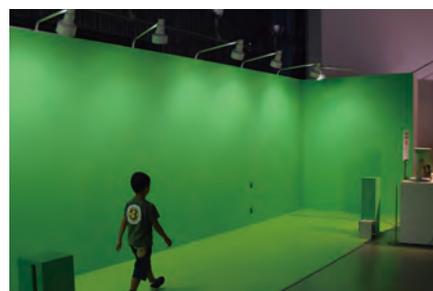
■脳の健康度を測る「認知能力計測」

マットの上で足踏みしながら、モニターに映し出される計算問題に応じていき、問題の正答率、歩行速度や安定性から認知能力を判定します。



■歩き方の個性がわかる「歩容個性計測」

背すじの伸びや腕の振り、など8項目から分析し、歩行年齢を判定する計測システムです。



産業科学研究所「ものづくり教室」開催

平成27年8月19日から21日までの3日間、小学4～6年生を対象とした「ものづくり教室」を開催しました。今年は「音」をテーマにして、カリンバとエレキギターを製作しました。

カリンバとはアフリカ発祥の楽器で、今回は箱の上に薄い鉄の板を並べて指で弾いて演奏する形を選びました。子供達は、カリンバを組み立て、スタッフのサポートのもとチューニングまで行い、最後は全員で「きらきら星」を演奏しました。会場内は優しく綺麗な音色に包まれました。

エレキギターは、組み立てからブレッドボードを使って電子回路づくりも行いました。製作後はそのギターから出る音をオシロスコープで測り、その音の波形から周波数を求めるといった科学実験も行いました。子供たちは四苦八苦しながらも頑張っていて計算していました。

また、毎年恒例となっている科学の話については、音声認識技術について研究されている駒谷和範教授にご講演をいただきました。音の波形や音声対話ロボットのしくみについて子供達は大変興味深く聞き入っていました。さらに今年は、施設見

学も開催し産研の最先端の研究を見ていただきました。大阪大学や産研の研究内容を身近に感じることができ、子供達と一緒に参加された保護者の方も大変喜ばれていました。

応募者数は120名で、3日間で100名近い子供達に参加してもらいました。今年は受講人数を昨年の倍近くに増やすことで、より多くの子供達にものづくりの体験をしてもらいました。この「ものづくり教室」は今年で10年目を迎えました。これからも多くの子供達に科学の面白さや、ものづくりの楽しさを伝え続けたいと思います。



武庫川女子大学附属高等学校ほか 施設見学続々と

今年で9年目となる武庫川女子大学附属高等学校の見学会が、6月5日に行われ、高校1年生55名が産研を訪れました。スーパーサイエンスハイスクールに採択されている同校の大学との連携による先進的理数教育の一環として、産研では例年、見学会と夏季に研究体験の受け入れを行っています。

見学会当日は、広報室員の安蘇芳雄教授による産研の紹介の後、中谷和彦教授、西野邦彦教授、黒田俊一教授、能木雅也准教授から研究紹介が行われ、その後各研究室を見学しました。

7月下旬には、夏季研究体験を実施しました。各研究室の教職員や学生さんの分かり易く丁寧な指導で、参加した生徒さん達からは充実した

研究体験となったようです。

この他にも、中国より日中文化事業団、インドネシアより大学生・高校生のNGO団体の来訪や四條畷高校、奈良工業高等専門学校の見学なども受け入れ、多数の方が研究室・施設を訪れました。ご協力頂きました皆様、誠にありがとうございました。



シンポジウム「未来を拓く植物バイオのチカラ～授業と科学実験で学ぶ、遺伝子組換え植物～」開催

平成27年8月29日(土)に、シンポジウム「未来を拓く植物バイオのチカラ～授業と科学実験で学ぶ、遺伝子組換え植物～」が、大阪富国生命ビル4Fの産学連携活動支援施設で開催されました [共催：日本学術振興会植物バイオ第160委員会・(財)大阪大学産業科学研究所協会・(社)テラプロジェクト、後援：近畿農政局]。知的財産研究分野が継続的に取り組んでいる企画のひとつで、今回は特に小学生の参加が多く見られました。

本研究所副所長の永井健治教授、小林昭雄招聘教授らが植物バイオの講演を行い、科学実験の実演、遺伝子組換えパパイアの試食が行われました。子ども達にとっては夏休みの終わりに科学の最先端に触れる良い機会となりました。



産研定例記者会見—スタートから2周年を迎えました



産研では、2013年7月より毎月第3火曜日に大阪大学中之島センターで定例記者会見を実施しています。開始から2周年を迎えた7月13日の第25回の定例記者会見終了後、昨年度に引き続き、在阪報道機関との懇談会を開催致しました。

産研定例記者会見は、「産業に活かす科学」を实践するため常に社会や産業界に情報を発信し、科学と社会を繋げることを目指してスタートしました。産研に所属する研究者が、時にはデモンストレーションも

交え、研究動向や成果、今後の展望などについて、分かりやすく発表してきました。おかげさまで多様なメディアを通じ報道され、昨年度の総報道件数は1年間でおおよそ200件、今年度は4月からの半年ですでに160件を超える報道がありました。

今後も広く社会に情報を発信し、新聞の科学欄からテレビの情報番組・一般誌まで、幅広いジャンルで産研が紹介されることで産学連携の活性化を図り、社会に貢献できる研究所としてさらに飛躍していきます。



「第4回産研若手人材育成海外派遣ワークショップ」開催(2015年7月24日)

産研は、グローバル若手研究者を育成するため、平成24年度から海外派遣プログラムを実施しており、より多くの学生、若手教員に海外経験を積んでもらうことを目的に「第4回産研若手人材育成海外派遣ワークショップ」を開催しました。

当日は、67名が参加し、11名の派遣帰国者の報告に加え、久保井亮一名誉教授(前大阪大学サンフランシスコ教育研究センター長)には海外挑戦により広がる可能性について、また、留学生のMartijn Zwamaさん(フローニンゲン大学/D1(西野研))には、オランダについてお話しいただき、学生同士の英語による交流が行われました。



産研安全講習会を開催

産研安全講習会が平成27年5月18日(月)に管理棟講堂において教職員、学生、研究者など合わせて55名が参加して開催されました。午前に行われたバイオセーフティ講習会に続き、午後の部「安全に研究を行うために」と題して、安全衛生管理委員会委員長の磯山教授の挨拶から始まり、技術室メンバーと安全衛生管理部の田中特任技術職員が専門分野を担当して講習を行いました。

項目は「大学における安全衛生管理」「電気の取扱い」、「所内における、より良い生活環境のために」、「産研ネットワーク利用上の注意事項」、「試薬管理

システムについて」、「工作機械・工具を安全に使用するために」、「ガラスの取扱いでケガをしないために」、「ガスを安全に取り扱うために」、「高圧ガス管理システムについて」、「実験に関する諸注意」とどれも研究、実験を進めるうえで欠かせない内容だったと思います。

講習を行ったスライドは技術室ホームページから閲覧可能になっていますので、必要になった際は読み返しながら安全に研究を行っていただきたいと思います。



REPORT 2015 産研フェスタ

今年も産研フェスタが無事に開催されました。毎年7月に行われていた産研フェスタですが今年は台風のため延期となり、9月18日に開催となりました。延期のため参加者数、参加店舗の減少が心配されましたが7月の開催時より出店数が1店舗増えて13店舗もの出店があり、大変賑わいがありました。今年はステージ演出が2件、バンド演奏、抽選会などが行われました。また、フットサル大会や大縄大会の表彰式も行われました。ステージ演出では産業科学研究所の研究室からバンド演奏と関西で活躍中のパティンダーさんによるショーが開催されました。毎年行われているバンド演奏ではテレビ、ラジオなどで活躍中のワライナキさんが来所されて大変盛り上がることができました。今年の抽選会では豪華な景品をかけたじゃんけん大会を行い、最後まで盛り上がりを見せました。

フットサル大会

優勝:八木研、2位:大岩研、3位:加藤研



大縄大会

優勝:中谷研、2位:笹井研、3位:大岩研



【研究成果】固体中で非局所量子もつれを実証 —量子計算機等の基盤となるもつれ電子対発生器の実現へ大きな一歩—

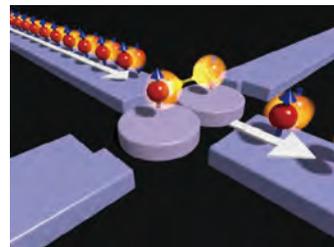
量子システム創成研究分野
(大岩研究室)

大阪大学産業科学研究所の大岩顕教授、金井康助教授は、理化学研究所(理研)創発物性科学研究センター量子機能システム研究グループの樽茶清悟グループディレクター(東京大学大学院工学系研究科教授)、量子効果デバイス研究チームのラッセル・スチュワート・ティーン研究員、東京大学生産技術研究所の平川一彦教授らとの共同研究にて、超伝導体中の電子対、「クーバー対」を構成する2つのもつれた電子を2つの量子ドットへそれぞれ分離し、その後、別の超伝導体の中で再び結合させて検出することに成功しました。

このことにより、空間的に離れた2個の電子の間に非局所性の量子もつれ(非局所量子もつれ)が存在することを初めて確認しました。共同研究グループは、超伝導体中のクーバー対から1つのもつれ電子対を取り出し、電子対を構成する2つの電子を2つの量子ドットへそれぞれ分離する新しいナノデバイスを開発しました。そして、分離した電子を別の超伝導体中で再び結合したときに生じる超伝導電流を観測することで、空間的に離れた2個の電子スピンの間に非局所量子もつれが存在することを初めて確認しました。

この成果は、量子計算機や量子通信などの基盤となる、もつれ電子対発生器の実現に向け重要なステップとなります。

本研究は、科学技術振興機構(JST)の国際科学技術共同研究推進事業(戦略的国際共同研究プログラム)日独共同研究「ナノエレクトロニクス」の一環として行われました。本研究は、英国のオンライン科学雑誌「Nature Communications」(7月1日付)に掲載されました。



谷口正輝教授が「大学発ベンチャー表彰:科学技術振興機構理事長賞」に選ばれました

大阪大学産業科学研究所の谷口正輝教授が、「大学発ベンチャー表彰2015:科学技術振興機構理事長賞」に選ばれました。この表彰制度は、国立研究開発法人科学技術振興機構と国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構が、大学等の成果を活用して起業した大学発ベンチャーのうち、今後の活躍が期待される優れた大学発ベンチャーを表彰するとともに、特にその成長に寄与した大学や企業等を表彰するものです。表彰式は、8月27日(木)に、東京ビッグサイト(東京都江東区有明)にて開催されました。

クオントムバイオシステムズ社は、本学・産業科学研究所の谷口正輝教授と川合知二特任教授により創出された1分子シーケンサーの研究成果と知的財産権をもとに、大学の基礎研究を新産業へと発展させることを目的として設立した本学・新産業創出協働ユニットの第一号支援を受けて創業されたベンチャー企業です。

クオントムバイオシステムズ社は、基礎研究から応用まで一貫した研究の出口にあり、ゲノムにもとづく医療・創薬に代表される個別化医療を実現する革新的技術が期待されています。本学においてなされた1分子科学という基礎研究が、社会的な波及効果をもつ1分子シーケンサー技術へと発展しうること示した意義は極めて大きく、クオントムバイオシステムズ社の今後の更なる発展が期待されます。



八木康史教授、永井健治教授がテレビで紹介されました

9月11日、関西テレビの「ゆうがた LIVEワンダー」業界イチオシスcoopセキュリティ産業新聞のコーナーに八木康史教授が出演され、研究室の様子や歩容認証の研究が紹介されました。また、同月14日、朝日放送のバラエティ番組「ピーバップ!ハイヒール」で植物の未来というテーマでミニドラマ仕立ての再現映像も交えながら永井健治教授の発光植物に関する研究が紹介されました。ここ最近、新聞等の報道や業界誌掲載だけでなく、一般向けの媒体で紹介されるケースが増えました。今後のご活躍に期待がかかります。

講演会・シンポジウム等スケジュール (詳細は産研HPイベント情報をご覧ください)

日程	内容	会場
11月24日(火) 13:30~17:45	大阪大学産業科学研究所 第71回学術講演会	大阪大学産業科学研究所 管理棟1階講堂
11月24日(火) 12:00~13:15	第3回産研OB・OG/学生交流会	大阪大学産業科学研究所 インキュ棟1階講義室
12月7日(月) ~9日(水)	The 19th SANKEN International Symposium, The Institute of Scientific and Industrial Research (ISIR), Osaka University The 14th SANKEN Nanotechnology International Symposium, ISIR, Osaka University The 3rd KANSAI Nanoscience & Nanotechnology International Symposium The 11th HANDAI Nanoscience & Nanotechnology International Symposium	大阪大学銀杏会館

サンフランシスコ市派遣高校生アンバサダーが来所(2015年8月3日)

大阪市の姉妹都市であるサンフランシスコ市から、高校生アンバサダー 2名(Jane Saelaiさんと Jasmine Wongさん)が、久保井亮一名誉教授(前大阪大学サンフランシスコ教育研究センター長)の紹介で来所し、永井研究室(生体分子機能科学研究分野)を見学しました。



受賞一覧 (平成27年6月1日～9月30日)

多根 正和	文部科学省科学研究費補助金「新学術領域研究」 シンクロ型LPSO構造の材料科学 -次世代軽量構造材料への革新的展開- 優秀発表賞 光化学協会賞	文部科学省科学研究費補助金「新学術領域研究」 シンクロ型LPSO構造の材料科学 -次世代軽量構造材料への革新的展開- 光化学協会 インド原子力学会 日本薬学会生物系薬学部会 第27回微生物シンポジウム 最優秀アブストラクト賞
藤塚 守 室屋 裕佐 山崎 聖司	インド原子力学会 最優秀ポスター賞 第27回微生物シンポジウム 最優秀アブストラクト賞	インド原子力学会 第27回微生物シンポジウム 紙バルブ技術協会 国立研究開発法人 科学技術振興機構 韓国光科学会 韓国光科学会 Merit Award 日本光医学・光生物学会 学会賞 6th Symposium on Antimicrobial Resistance in Animals and the Environment (ARAE 2015), Poster Award
古賀 大尚 谷口 正輝 真嶋 哲朗 真嶋 哲朗 山崎 聖司	第82回紙バルブ研究発表会最優秀発表賞 科学技術振興機構理事長賞 韓国光科学会 Merit Award 日本光医学・光生物学会 学会賞 6th Symposium on Antimicrobial Resistance in Animals and the Environment (ARAE 2015), Poster Award	2015年度化学・生物素材研究開発奨励賞
良元 伸男	2015年度化学・生物素材研究開発奨励賞	Institut National de la Recherche Agronomique(INRA) 一般財団法人バイオインダストリー協会

新任教職員一覧 (平成27年6月1日～9月30日)

平成27年6月1日 採用 特任研究員(常勤)(先進電子デバイス)	松本 孝典
平成27年6月16日 採用 特任教授(第2研究部門) 採用 技術補佐員(量子ビーム科学研究施設)	安藤 陽一 喜寿 洋允
平成27年6月30日 採用 外国人研究員(客員教授)(産業科学ナノテクノロジーセンター)	AL-SHEIKHLY Mohamad Ismail
平成27年7月1日 昇任 准教授(知能アーキテクチャ) 採用 特任准教授(常勤)(機能物質化学) 採用 特任助教(常勤)(精密制御化学) 採用 特任助教(常勤)(精密制御化学) 採用 事務補佐員(先端実装材料)	福井 健一 OH Kyungsoo 山田 剛史 柴田 知範 片岡 葉子
平成27年7月31日 採用 外国人研究員(客員准教授)(産業科学ナノテクノロジーセンター)	林 士剛(LIN Shih-kang)
平成27年8月1日 採用 特任研究員(ナノ機能予測) 採用 技術補佐員(医薬品化学) 採用 技術補佐員(医薬品化学) 採用 技術補佐員(医薬品化学) 採用 技術補佐員(医薬品化学)	NGUYEN Thi Phuong Thao 佐藤 ともえ 松村 浩代 三木 亜紀 山岡 マキ
平成27年8月16日 採用 事務補佐員(知能推論)	熊代 那奈
平成27年8月26日 任命 産業科学研究所長	中谷 和彦
平成27年9月1日 採用 助教(半導体材料・プロセス) 採用 外国人研究員(客員教授)(産業科学ナノテクノロジーセンター) 採用 外国人研究員(客員准教授)(産業科学ナノテクノロジーセンター)	長谷川 丈二 JUNG Jae Pil Mohamed Almokhtar Mohamed Mahmoud ABDELMOLA

離任教職員一覧 (平成27年6月1日～9月30日)

平成27年6月15日 退職 教授(量子機能材料)	安藤 陽一
平成27年6月30日 退職 特任研究員(常勤)(複合知能メディア) 退職 特任研究員(常勤)(精密制御化学) 任期満了 外国人研究員(客員教授)(産業科学ナノテクノロジーセンター)	李 濤(LI Wei) 山田 剛史 MOZUMDER Asokendu
平成27年7月30日 任期満了 外国人研究員(客員教授)(産業科学ナノテクノロジーセンター)	AL-SHEIKHLY Mohamad Ismail
平成27年7月31日 退職 特任准教授(常勤)(知能アーキテクチャ)	森山 甲一
平成27年8月25日 退職 産業科学研究所長	八木 康史
平成27年8月31日 退職 特任研究員(機能物質化学) 任期満了 外国人研究員(客員准教授)(産業科学ナノテクノロジーセンター)	MOHANTA Suman Chandra 林 士剛(LIN Shih-kang)
平成27年9月15日 退職 技術補佐員(知能推論)	浅野 有紀
平成27年9月30日 退職 特任教授(常勤)(知的財産) 退職 特任助教(助教)(知識科学) 退職 特任研究員(常勤)(複合知能メディア) 退職 特任教授(半導体・材料プロセス) 退職 特任研究員(機能物質化学) 退職 特任研究員(ナノ機能予測) 退職 事務補佐員(総務課総務係) 任期満了 外国人研究員(客員教授)(産業科学ナノテクノロジーセンター)	清水 裕一 山縣 友紀 田川 聖一 佐賀 達男 林 賢今(LIN Xianjin) NGUYEN Thi Phuong Thao 西迫 満 JUNG Jae Pil

編集後記

本号では、中谷教授の所長への就任および八木前所長の大学副学長・理事への就任に関する記事を最初に上げさせて頂きました。また、イノベーションジャパン2015への出展や日本科学未来館での展示、ものづくり教室や高校生の見学の各種広報活動およびイベントも多数紹介させて頂きました。最後に、お忙しい中稿をご執筆頂いた皆様に厚くお礼申し上げます。(多根 正和)

産研ニュースレター 2015.10 第56号

発行:大阪大学 産業科学研究所 編集:産研広報室
〒567-0047 大阪府茨木市美穂ヶ丘8-1 TEL&FAX:06-6879-8524
URL:http://www.sanken.osaka-u.ac.jp/ E-mail:kouhou@sanken.osaka-u.ac.jp